

ヤクシカの捕獲効率と推移について（案）

屋久島におけるヤクシカ対策として、民有林では上屋久猟友会による主として罾猟（くくり罾と箱罾）による捕獲と屋久猟友会による主として銃猟捕獲が実施されている。

また、国有林では森林管理署・森林環境保全センターの職員による罾猟による捕獲が実施されている

表-1 に本報告の要約を示す。

表-1 ヤクシカの捕獲効率と推移についての要約

項目		概要（要約）
上屋久 猟友会	捕獲の概要	大半が罾猟
	捕獲頭数	平成 22 年度：778 頭 平成 23 年度：270 頭（9 月下旬まで）
	捕獲効率 （罾猟）	平成 22 年度：0.0415（778 頭中 447 頭の罾猟データを基に算定） 平成 23 年度：0.0533（9 月下旬までの 270 頭の罾猟データを基に算定）
	傾向と分析	・捕獲効率は平成 22 年度より 23 年度の方が高い。 ・捕獲数の多い地域が必ずしも捕獲効率が高いわけではない。
屋久 猟友会	捕獲の概要	大半が銃猟
	捕獲頭数	平成 22 年度：419 頭 平成 23 年度：391 頭（9 月下旬まで）
	捕獲効率 （銃猟）	平成 22 年度：1.0653（419 頭中 408 頭の銃猟データを基に算定） 平成 23 年度：1.0742（9 月下旬までの 391 頭の銃猟データを基に算定）
	傾向と分析	・捕獲効率は平成 22 年度より 23 年度の方が高い。 ・捕獲数の多い地域が必ずしも捕獲効率が高いわけではない。
森林管理 署・森林 環境保全 センター	捕獲の概要	全て罾猟
	捕獲頭数	平成 22 年度：501 頭 平成 23 年度：174 頭（10 月下旬まで）
	捕獲効率 （罾猟）	平成 22 年度：0.0243（501 頭中 493 頭の罾猟データを基に算定） 平成 23 年度：0.0216（10 月下旬までの 174 頭の罾猟データを基に算定）
	傾向と分析	・捕獲効率は平成 22 年度の方が 23 年度より高い。 ・捕獲数の多い地域が必ずしも捕獲効率が高いわけではない。
屋久島全体 の傾向と分析		屋久島での捕獲効率は、銃猟の場合も、罾猟の場合でも全国各地の数値に比較すると高い傾向にあり、特に銃猟の数値の高さが目立つ。

（注）捕獲効率は罾猟と銃猟では算定方法が異なるので、両者の単純比較はできない。

【罾猟】捕獲効率＝捕獲頭数／のべ罾数（のべ罾数＝罾数×捕獲日数）

【銃猟】捕獲効率＝捕獲頭数／出猟人工数（捕獲期間内ののべ出猟人工数）

また、屋久島町の有害鳥獣保護管理メッシュ図に集落及び国有林の主な林道名（旧国有林林道も含む）、地域区分（案）を記載し、図-1に示す。

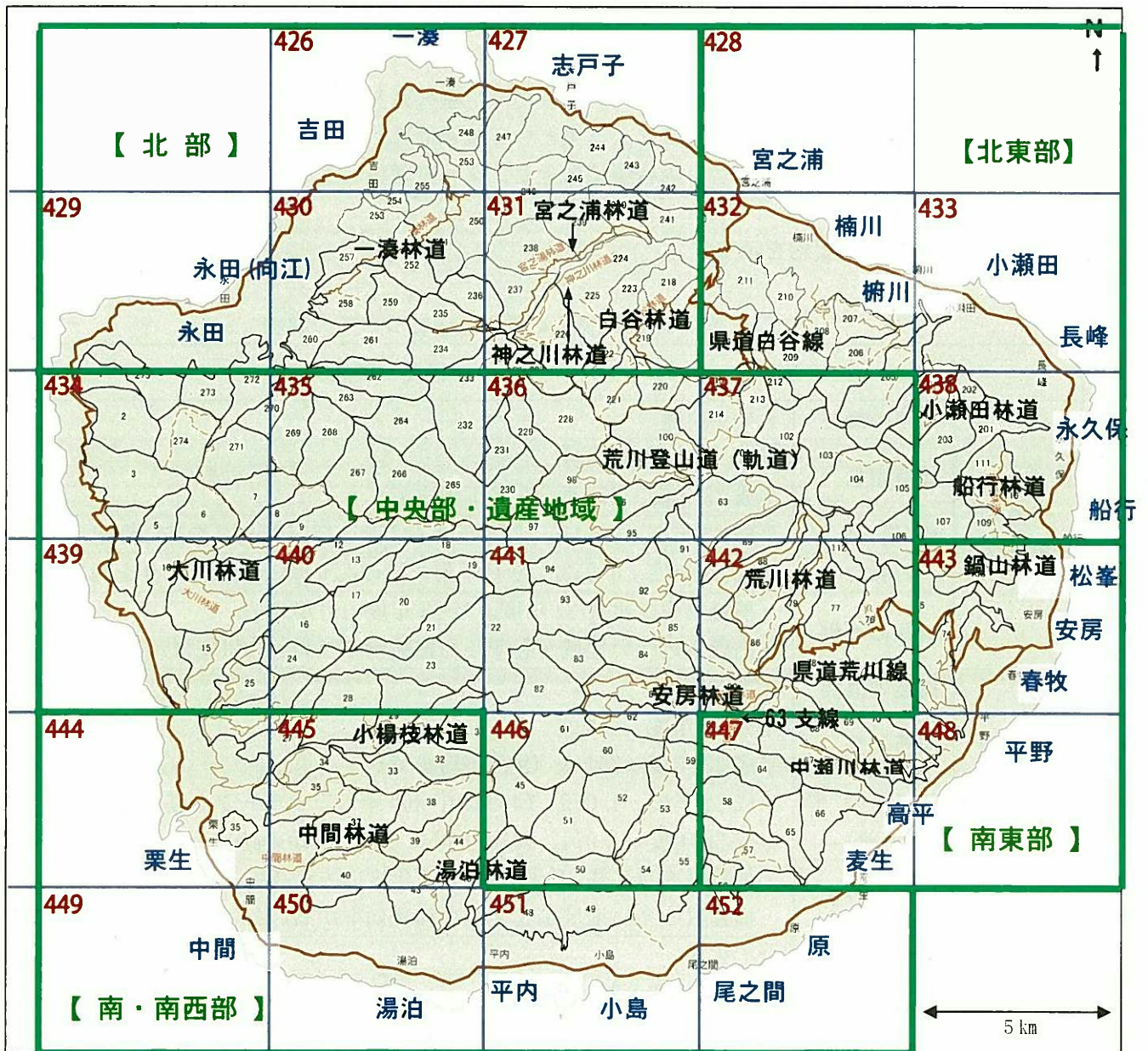


図-1 ヤクシカ有害鳥獣駆除管理メッシュと適正密度・目標頭数の考え方（地域区分）（案）

1. 上屋久猟友会の捕獲効率（22年度、23年9月まで）

上屋久猟友会では、その大半がくくり罟や箱罟を用いた罟猟による捕獲となっている。罟猟による捕獲効率は、捕獲頭数をのべ罟数で割って算出した。屋久島町から提出された上屋久猟友会の罟猟の申請書類を基に、管理メッシュ別地区別の捕獲頭数及び捕獲効率の整理を行い、平成22～23年度の捕獲効率を表-2-1に、捕獲効率の算定資料となった平成22年度の捕獲実績頭を表-2-2に、平成23年度の捕獲実績頭を表-2-3に示す。

表より、平成22年度の捕獲頭数（本集計に用いた捕獲頭数）は、宮之浦で156頭、永田で114頭、一湊で46頭、長峰でと45頭と多く、吉田で3頭、永田（向江）で8頭、楠川で10頭と少なかった。なお、上屋久猟友会では、平成22年度に計778頭（口永良部を除く）のヤクシカを捕獲しているが、各種理由（表-2-1の注書き参照）により、捕獲効率の集計に用いた頭数は447頭である。

一方、平成22年度の捕獲効率は、永田（向江）が0.1290と最も高く、続いて志戸子（0.0798）、一湊（0.0687）、小瀬田（0.0613）の順となっており、吉田（0.0061）、永田（0.0275）で低い結果となった。この結果、上屋久猟友会での平成22年度の捕獲効率は、平均0.0415となり高い数値となっている（後述5参照）。

ただし、捕獲頭数の多い宮之浦や永田が必ずしも捕獲効率が高いわけではなかった。

これは、捕獲時期や期間が地区によってまちまちであり、また捕獲者の熟練度に差があることなどが原因と思われる。また、捕獲効率は、22年度より23年度の方が高く、罟捕獲の熟練度が増したか、或いはヤクシカの減少が生じていないか、捕獲後密度が少なくなった地域に他の地域からヤクシカが流入してきた可能性等が考えられる。この傾向は、後述2の屋久猟友会の狩猟（猟銃使用）による捕獲効率の年変動についても言える。しかし、3で後述するの国有林の罟猟による捕獲効率の年変動は僅かに減少していることより、一概には考察できない。

なお、民有地における罟捕獲は、基本的には屋久島町から罟の貸出しを受け実施している。ただし、個人的に罟を保有し捕獲を実施している狩猟者もいて、そのような個人所有の罟数が明確に計上されていないので、国有林における捕獲効率より数値が高くである可能性があり、正確なモニタリングを進める上での課題となっている。

なおここに示したデータは、屋久及び上屋久猟友会の有害鳥獣駆除における申請書を基に整理したものであり、国有林も含め有害鳥獣駆除以外の狩猟は現在ではほとんど実施されていない。

表-2-1 平成22~23年度の上屋久猟友会における畷の捕獲効率

年度	地域	メッシュ	地区	畷期間	畷数 (個)	捕獲 頭数	のべ 畷数 (個日)	捕獲 効率
平成 22 年度	北部	429	永田	平成22年4月~平成23年3月	13	114	4,148	0.0275
		430	永田(向江)	平成22年12月~平成23年1月	1	8	62	0.1290
		426	一湊	平成22年7月~平成23年3月	4	46	670	0.0687
			吉田	平成22年12月~平成23年3月	6	3	488	0.0061
		427	志戸子	平成22年9月~平成23年3月	5	17	213	0.0798
	北東部	428	宮之浦	平成22年4月~平成23年3月	7	156	3,142	0.0496
			楠川	平成22年11月~平成23年3月	4	10	180	0.0556
		433	長峰	平成22年6月~平成23年3月	1	45	946	0.0476
			小瀬田	平成22年12月~平成23年1月	9	19	310	0.0613
		榑川	平成22年12月~平成23年3月	4	29	610	0.0475	
	合 計					54	447	10,769
平成 23 年度	北部	429	永田	平成23年4月~9月	15	63	1,708	0.0369
		426	一湊・吉田	平成23年4月~9月	8	67	1,099	0.0610
		427	志戸子	平成23年6月~9月	3	29	275	0.1055
	北東部	428	宮之浦・楠川	平成23年4月~9月	9	58	1,037	0.0559
		433	長峰・小瀬田・榑川	平成23年4月~9月	12	53	942	0.0563
	合 計					47	270	5,061

(注1) のべ畷数は捕獲日数に畷数を掛けた値。捕獲効率は、捕獲頭数をのべ畷数で割った値である。

(注2) 上屋久猟友会では、猟銃を用いた狩猟が盛んではなく、データが少ないので、本捕獲効率の整理表には含めていない。

(注3) また、集計の基になった申請書の記載内容に不備があり、集計に使用できないものは除いている。

(注4) 上屋久猟友会では、平成22年度に計778頭(口永良部を除く)のヤクシカを捕獲しているが、上記(注2)、(注3)の理由により、捕獲効率を計算した頭数は447頭である。

表-2-2 平成22年度の上屋久猟友会における罾猟捕獲実績等

メッシュ	地区名	設置者	捕獲期間	捕獲日数	罾数	捕獲頭数	のべ罾数	捕獲効率	捕獲効率
426	一湊	A	平成22年7月～平成22年8月	62	1	3	62	0.0687	0.0423
	一湊	B	平成22年12月～平成23年3月	122	2	13	244		
	一湊	C	平成22年12月～平成23年3月	122	2	15	244		
	一湊	D	平成23年2月～平成23年3月	60	2	15	120		
	一湊 小計			—	7	46	670	0.0061	
	吉田	E (捕獲器)	平成22年12月～平成23年3月	122	4	3	488		
	吉田 小計			—	4	3	488		
合 計				—	11	49	1,158	—	
427	志戸子	A	平成22年9月～平成23年3月	213	1	17	213	0.0798	0.0798
428	宮之浦	F	平成22年4月～平成23年3月	366	1	96	366	0.0496	0.0500
	宮之浦	G	平成22年4月～平成23年3月	366	2	40	732		
	宮之浦	A	平成22年5月～平成22年11月	214	1	20	214		
	宮之浦	F (捕獲器)	平成22年4月～平成23年3月	366	5	(注6)	1,830		
	宮之浦 小計			—	9	156	3,142	0.0556	
	楠川	H	平成22年11月	30	2	6	60		
	楠川	I	平成23年2月～平成23年3月	60	2	4	120		
楠川 小計			—	4	10	180	—		
合 計				—	13	166	3,322	—	
429	永田	E	平成22年4月～平成23年3月	366	2	69	732	0.0275	0.0275
	永田	J	平成22年8月～平成23年3月	244	1	26	244		
	永田	K	平成22年8月～平成22年11月	122	2	19	244		
	永田	E (捕獲器)	平成22年4月～平成23年3月	366	8	(注7)	2,928		
合 計				—	13	114	4,148	—	
430	永田2	J	平成22年12月～23年1月	62	1	8	62	0.1290	0.1290
433	長峰	F	平成22年6月～平成22年12月	214	1	24	214	0.0476	0.0498
	長峰	L	平成22年8月～平成23年3月	244	2	21	488		
	長峰	F (捕獲器)	平成22年8月～平成23年3月	244	1	(注8)	244		
	長峰 小計			—	4	45	946		
	小瀬田	M	平成22年12月～平成23年1月	62	2	9	124	0.0613	
	小瀬田	N	平成23年1月	31	2	6	62		
	小瀬田	F (捕獲器)	平成23年1月	62	2	4	124		
	小瀬田 小計			—	6	19	310	0.0475	
	榊川	O	平成22年12月～平成23年3月	122	2	29	244		
榊川	O (捕獲器)	平成22年12月～平成23年3月	122	3	(注9)	366			
榊川 小計			—	5	29	610			
合 計				—	15	93	1,866	—	

【 捕獲効率算定の前提 】

- (注1) くくり罾は免許取得者1名につき2台が支給されていることから、この数値と捕獲器の設置台数を基に罾数の算出を行なったが、1名の捕獲者が複数の地域にまたがって捕獲を行なっている場合、捕獲期間の長い地域で罾を設置したものと判断した。
- (注2) 捕獲器の捕獲期間は、対象地区のなかで最も長い捕獲期間と同じとした。
- (注3) 捕獲データのうち、捕獲日数が少ない数値については、単発での捕獲が考えられるが設置期間が明確ではないため、捕獲効率のデータから除外した。
- (注4) 環境省の捕獲データについては、別途捕獲効率の検討を行なうことから、上記のデータから除外した。
- (注5) 設置期間については、捕獲のあるデータの月の日数とした。
- (注6) 罾の設置者によっては、捕獲器捕獲頭数とくくり罾捕獲頭数とを合わせて申請するケースが多く、どちらで捕獲されたものかわからない。そのため、428メッシュ宮之浦地区のF (捕獲器) の捕獲頭数は宮之浦地区の上記F欄に含めた。以下、注7～9も同様。
- (注7) 429メッシュ永田地区のE (捕獲器) の捕獲頭数は、永田地区の上記E欄に含む。
- (注8) 433メッシュ長峰地区のF (捕獲器) の捕獲頭数は、長峰地区の上記F欄に含む。
- (注9) 433メッシュ榊川地区のO (捕獲器) の捕獲頭数は、榊川地区の上記O欄に含む。

表-2-3 平成23年9月末までの上屋久猟友会における罾猟捕獲実績等

メッシュ	地区名	設置者名	捕獲期間	捕獲日数	罾数	捕獲頭数	のべ罾数	平成23年度(～10月末)の捕獲効率	平成22年度の捕獲効率
426	一湊・吉田	A	平成23年8月	31	2	3	62	0.0610	0.0423
		B	平成23年4月～平成23年9月	183	1	16	183		
		C	平成23年4月～平成23年7月	122	1	48	122		
		A(捕獲器)	平成23年4月～平成23年9月	183	4	(注7)	732		
		合計		336	8	67	1099		
427	志戸子	D	平成23年6月～9月	122	2	22	244	0.1055	0.0798
		C	平成23年7月	31	1	7	31		
		合計		153	3	29	275		
428	宮之浦・楠川	E	平成23年4月～7月	122	2	29	244	0.0559	0.0500
		F	平成23年4月～7月	122	1	25	122		
		G	平成23年8月～9月	61	1	4	61		
		E(捕獲器)	平成23年4月～7月	122	5	(注8)	610		
		合計		427	9	58	1037		
429	永田	H	平成23年4月～7月	122	2	19	244	0.0369	0.0275
		B	平成23年6月～9月	122	1	25	122		
		I	平成23年4月～7月	122	2	12	244		
		J	平成23年6月～7月	61	2	7	122		
		H(捕獲器)	平成23年4月～7月	122	8	(注9)	976		
		合計		549	15	63	1708		
433	長峰・小瀬田・楠川	F	平成23年8月～9月	61	1	38	61	0.0563	0.0498
		G	平成23年4月～6月	91	1	6	91		
		K	平成23年7月	31	2	3	62		
		L	平成23年4月～6月	91	2	6	182		
		F(捕獲器)	平成23年4月～6月	91	6	(注10)	546		
		合計		365	12	53	942		

【捕獲効率算定の前提】

- (注1) くくり罾は免許取得者1名につき2台が支給されていることから、この数値と捕獲器の設置台数を基に罾数の算出
- (注2) 捕獲器の捕獲期間は、対象地区のなかで最も長い捕獲期間と同じとした。
- (注3) 捕獲データのうち、捕獲日数が少ない数値については、単発での捕獲が考えられるが設置期間が明確ではない
- (注4) 環境省の捕獲データについては、別途捕獲効率の検討を行なうことから、上記のデータから除外した。
- (注5) 設置期間については、捕獲のあるデータの月の日数とした。
- (注6) 罾の設置者によっては、捕獲器捕獲頭数とくくり罾捕獲頭数とを合わせて申請する場合が多く、どちらで捕獲さ
- (注7) 426メッシュのA(捕獲器)の捕獲頭数は、426メッシュの上記A欄に含む。
- (注8) 428メッシュのE(捕獲器)の捕獲頭数は、428メッシュの上記E欄に含む。
- (注9) 429メッシュのH(捕獲器)の捕獲頭数は、429メッシュの上記H欄に含む。
- (注10) 433メッシュのF(捕獲器)の捕獲頭数は、433メッシュの上記F欄に含む。

2. 屋久猟友会の捕獲効率(22年度、23年9月まで)

屋久猟友会では、その大半が銃銃を使用した捕獲となっている。銃銃による捕獲効率は、捕獲頭数を出勤日数で割って算出した。屋久島町から提出された屋久猟友会の銃銃の申請書類を基に、管理メッシュ別地区別の捕獲頭数及び捕獲効率の整理を行い、平成22～23年度の捕獲効率を表-3-1に、捕獲効率の算定資料となった平成22年度の捕獲実績等を表-3-2に、平成23年度の捕獲実績等を表-3-3に示す。表より、平成22年度の捕獲頭数(本集計に用いた捕獲頭数)は、船行で241頭、栗生で101頭、湯泊で28頭と多く、高平で4頭、松峰で7頭、平野で10頭と少なかった。捕獲個体の半数以上は、438メッシュ(永久保)と444メッシュ(栗生)で捕獲されたものである。なお、屋久猟友会では、平成22年度に計419頭のヤクシカを捕獲しているが、各種理由(表-3-1の注書き参照)により、捕獲効率の集計に用いた頭数は408頭である。

一方、平成22年度の捕獲効率は、船行が1.4785と最も高く、続いて平野(1.4286)、高平(1.3333)、松峰(1.0000)の順となっており、湯泊(0.4590)、栗生(0.8211)で低い結果となった。この結果、屋久猟友会での平成22年度の捕獲効率は、平均1.0653となり、他の都道府県で公表されている狩猟(銃銃使用)の数値と比較しても非常に高い数値となっている(後述5参照)。ただし、捕獲頭数の多い栗生や湯泊が必ずしも捕獲効率が高いわけではなかった。

これは、捕獲時期や期間が地区によってまちまちであり、また捕獲者の熟練度に差があることなどが原因と思われる。また、捕獲効率は、22年度よりも23年度(9月まで)の方が高く、捕獲の熟練度が増したか、或いはヤクシカの減少が生じていないか、捕獲後密度が少なくなった地域に他の地域からヤクシカが流入してきた可能性が考えられる。さらに、屋久猟友会のように捕獲効率が高い場合には、狩猟者が猟を早めに切り上げているとも聞き、実質的な捕獲能力に基づく捕獲効率は、さらに高い可能性が考えられる。

屋久猟友会の銃銃におけるデータの中で特筆すべき点は、特定地域での捕獲頻度を高めているものの捕獲効率値の減少は認められない。特に、438メッシュ(永久保)及び444メッシュ(栗生)においては、捕獲年度、捕獲月日が進んでも、捕獲効率の減少が見られない。

これは、ひとつには、これらの地域における捕獲圧が、ヤクシカの生息密度の減少をきたす程のものではない可能性が考えられる。また、もう一点として、捕獲圧をかけヤクシカの生息数が減少した地域に、これらの地域に接する他の地域(例えば高標高地域等)からヤクシカが移動してきて生息密度の均衡を保っている可能性も否定できない。さらに、狩猟者が、一定の捕獲頭数を求め、広いメッシュ内の各所を効率よく狩猟し続け、結果的に一定値の捕獲効率を保っている可能性もあるので、今後は、その辺の確認及び検討が望まれる。

表-3-1 平成22～23年度の屋久猟友会における銃猟の捕獲効率

年度	地域	メッシュ	地区	狩猟期間	捕獲頭数	出勤人数 (人日)	捕獲効率
平成22年度	北東部	438	船行	平成22年4月10日～平成23年3月12日 (計24日)	241	163	1.4785
	南東部	443	松峯	平成22年12月12日(計1日)	7	7	1.0000
		447	高平	平成22年10月23日(計1日)	4	3	1.3333
		448	平野	平成22年5月29日(計1日)	10	7	1.4286
	南・南西部	444	栗生	平成22年4月17日～平成23年3月20日 (計16日)	101	123	0.8211
		450	湯泊	平成22年5月22日～12月26日(計9日)	45	80	0.5625
合 計					408	383	1.0653
平成23年度	北東部	438	船行	平成23年4月9日～9月11日(計10日)	88	68	1.2941
	南東部	447	高平	平成23年4月17日(計1日)	15	7	2.1429
	南・南西部	444	栗生	平成23年5月8日～9月18日(計7日)	59	50	1.1800
		450	湯泊	平成23年4月16日～8月21日(計4日)	31	40	0.7750
	合 計					391	364

(注1) 出勤人数は狩猟期間内における延べ出猟人工数を示した。捕獲効率は、捕獲頭数を出勤人数で割った値である。

(注2) 屋久猟友会では、罟猟は盛んではなく、データが少ないので、本捕獲効率の整理表には含めていない。

(注3) また、集計の基になった申請書の記載内容に不備があり、集計に使用できないものは除いている。

(注4) 屋久猟友会では、平成22年度に計419頭のヤクシカを捕獲しているが、上記(注2)、(注3)の理由により、捕獲効率を計算した頭数は408頭である。

(注5) なお、屋久猟友会では、平成23年4月～9月間に計70頭のヤクシカを罟猟で捕獲しているが、ここではその数値は計上していない。

表-3-2 平成22年度から23年9月末の屋久猟友会における銃猟の捕獲実績等 (1/2)

管理メッシュ	No.	調査年月日		捕獲個体					出勤人数	捕獲効率	地区別比率	備考
		年度	月日	雄	雌	子	不明	総捕獲数				
438	1	平成22年度	4月10日	6	4			10	6	1.7	38.2%	
	2		4月24日	7	4			12	7	1.7		
	3		5月23日	5	4			9	7	1.3		
	4		6月6日	5	4			9	6	1.5		
	5		6月12日	3	3			6	6	1.0		
	6		7月11日				10	10	7	1.4		
	7		7月17日	3	2			5	7	0.7		
	8		8月7日				7	7	6	1.2		
	9		8月21日				11	11	7	1.6		
	10		9月19日				12	12	8	1.5		
	11		9月26日				12	12	6	2.0		
	12		10月17日	6	7			13	7	1.9		
	13		10月31日	7	6			13	7	1.9		
	14		11月14日	7	3			10	8	1.3		
	15		11月28日	5	5			10	7	1.4		
	16		12月11日	2	3			5	7	0.7		
	17		12月26日	4	6			10	7	1.4		
	18		1月16日	7	6			13	8	1.6		
	19		1月23日	2	7			9	6	1.5		
	20		1月30日	7	6			13	7	1.9		
	21		2月6日	6	6			12	6	2.0		
	22		2月20日	7	5			12	7	1.7		
	23		3月5日	5	3			8	6	1.3		
	24		3月12日	5	5			10	7	1.4		
	25	平成23年度	4月9日	8	6			14	6	2.3		
	26		5月8日				7	7	7	1.0		
	27		5月22日	6	3			9	8	1.1		
	28		6月5日	4	5			9	6	1.5		
	29		6月12日	3	3			6	6	1.0		
	30		7月3日				6	6	7	0.9		
	31		7月16日	4	4			8	7	1.1		
	32		8月13日	5	2			7	6	1.2		
	33		8月20日	5	5			10	7	1.4		
	34		9月11日	7	5			12	8	1.5		
438メッシュ計				141	122		65	329	231	1.4		
443	1	平成22年	12月12日	5	2			7	7	1.0		
443メッシュ計				5	2			7	7	1.0	0.8%	0.8%

(注1) 上屋久猟友会のデータについては、狩猟ではなく罟捕獲が圧倒的に多いが、罟を仕掛けた個数データがないので、捕獲効率を計算することが困難で、本表には含めていない。

表-3-3 平成22年度から23年9月末の屋久猟友会における銃猟の捕獲実績等 (2/2)

管理メ ッシュ	No.	調査年月日		捕獲個体					出勤 人数	捕獲効 率	地区別 比率	備考
		年度	月日	雄	雌	子	不明	総捕獲数				
444	1	平成22年度	4月17日	2	1			3	7	0.4		
	2		4月24日	2				2	9	0.2		
	3		6月19日	2	3			5	10	0.5		
	4		6月20日	1	2			3	6	0.5		
	5		6月26日	2	5			7	6	1.2		
	6		9月11日	3				3	8	0.4		
	7		9月18日	5	5			10	8	1.3		
	8		11月20日	2	3	1		6	7	0.9		
	9		12月4日	4	4			8	8	1.0		
	10		12月5日	6	4			7	10	0.7		
	11		12月19日	2	3			5	5	1.0		
	12		12月25日	3	5			8	6	1.3		
	13		1月15日	4	6			10	9	1.1		
	14		2月12日	3	3			6	7	0.9		
	15		2月20日	6	4			10	8	1.3		
	16		3月20日	4	4			8	9	0.9		
	17	平成23年度	5月8日				7	7	7	1.0		
	18		5月14日	6	3			9	6	1.5		
	19		5月21日	8	4		1	13	7	1.9		
	20		6月18日	2	5			7	9	0.8		
	21		6月25日		2		3	5	6	0.8		
	22		9月4日	4	2			6	7	0.9		
	23		9月18日	7	5			12	8	1.5		
444メッシュ計				78	73	1	11	160	173	0.9		18.6%
447	89	平成22年度	10月23日	3	1			4	3	1.3		
	90	平成23年度	4月17日				15	15	7	2.1		
447メッシュ計				3	1		15	19	10	1.9		2.2%
448	91	平成22年度	5月29日	5	4		1	10	7	1.4		
448メッシュ計				5	4		1	10	7	1.4		0.8%
450	92	平成22年度	5月22日	2			2	4	12	0.3		
	93		6月2日	2				2	8	0.3		
	94		7月10日	1		1		2	12	0.2		
	95		8月21日	2	3	2		7	8	0.9		
	96		8月22日		1	1		2	6	0.3		
	97		8月28日	3				3	8	0.4		
	98		12月26日	3	5			8	7	1.1		
	99		1月8日	3	8			11	10	1.1		
	100	1月22日	1	5			6	9	0.7			
	101	平成23年度	4月16日	2	3			5	10	0.5		
	102		4月23日	2	4			6	10	0.6		
	103		8月6日	5	3			8	11	0.7		
104	8月21日		7	5			12	9	1.3			
450メッシュ計				33	37	4	2	76	120	0.6		8.8%
総計				375	369	5	111	862	823	1.0		

3. 国有林におけるの捕獲効率（22年度、23年）

国有林では、屋久島森林管理署、屋久島森林環境保全センターによる捕獲が実施されている。国有林における捕獲は、くくり罠を用いた罠猟であり、その捕獲効率は、捕獲頭数をのべ罠数で割って算出した。屋久島森林管理署、屋久島森林環境保全センターから提出された資料を基に、管理メッシュ別地区別の捕獲頭数及び捕獲効率の整理を行い、平成22～23年度の捕獲効率を表-4-1に示す。また、捕獲効率の算定の基礎となった平成22年度の捕獲実績等を表-4-2～3に、平成23年度の捕獲実績等を表-4-3～4に示す。表より、平成22年度の捕獲頭数は、宮浦林道で185頭、神之川林道で123頭、大川林道で106頭と多く、小楊枝林道で3頭、船行林道で6頭、小瀬田林道で8頭と少なかった。捕獲個体の半数以上は、北部の宮之浦・神之川林道と、中央部・遺産地域（西部より）の大川林道の3つの林道で捕獲されたものであり、全体の6割を占め、現在は特定の地域で捕獲が行われている。

一方、平成22年度の捕獲効率は、神之川林道が0.0448と最も高く、続いて宮之浦林道(0.0379)、白谷林道217支線(0.0236)の順となっており、船行林道(0.0033)、小楊枝林道(0.0046)、小瀬田林道(0.0068)で低い結果となった。この結果、国有林における平成22年度の捕獲効率は、平均0.0243となり高い数値となっている（後述5参照）。

ただし、捕獲頭数の多い大川林道が必ずしも捕獲効率が高いわけではなかった。

これは、捕獲場所や時期、期間が地区によってまちまちであり、また捕獲者の熟練度に差があることなどが原因と思われる。

また、国有林全体の捕獲効率を月別に見ると、平成22年11月が最も捕獲効率が高く、続いて平成23年6月が高い。一方、冬期間の平成23年1月や3月の捕獲効率が低い結果となっていて、今後の推移を見守る必要性もある。

特に、国有林においては、捕獲そのものを事業として重点的に実施しているものではなく、森林施業を実施している地域への朝夕の限られた移動時間を活用して実施している。そのような限られた条件下における捕獲ゆえに、集約的な捕獲とは言えない。

また、上屋久猟友会にて実施されている罠猟の捕獲効率より数値が小さいが、これは前にも述べたように、民有地では個人所有の正確な罠数が計上されていないので、捕獲効率を計算する際ののべ罠数が過小となり、結果的に民有地での捕獲効率（罠猟）が過大となっている可能性がある。

表-4-1 平成22～23年度の屋久島森林管理署・森林環境保全センターにおける畧猟の捕獲効率

年度	地域	メッシュ	林道	畧猟期間	畧数(個)	捕獲頭数	のべ畧数(個日)	捕獲効率
平成22年度	北部	431	宮之浦林道	平成22年9月～平成23年3月	23	185	4,876	0.0379
			神之川林道	平成22年6月～11月	15	123	2,745	0.0448
			白谷林道	平成22年6月～8月	12	26	1,104	0.0236
	北東部	438	小瀬田林道	平成23年1月～平成23年3月	13	8	1,170	0.0068
			船行林道	平成22年9月～平成23年3月	12	6	1,812	0.0033
		433	205林班	平成22年12月～平成23年3月	捕獲柵	(8)	—	—
	南東部	447	中瀬川林道	平成22年9月～12月	13	26	1,586	0.0164
	南・南西部	445	湯泊林道	平成22年6月	21	10	630	0.0159
		444	小楊子林道	平成23年3月	21	3	651	0.0046
	中央部・遺産地域	439	大川林道	平成22年6月～平成23年2月	21	106	5,733	0.0185
合 計					151	493	20,307	0.0243
平成23年度	北部	431	宮之浦林道	平成23年5月～10月	20	58	2,084	0.0278
			神之川林道	平成23年5月～7月	20	43	1,840	0.0234
			白谷林道	平成23年4月	4	4	124	0.0323
	北東部	438	船行林道	平成23年6月、10月	4	8	244	0.0328
	南東部	443	鍋山林道	平成23年6月～7月、10月	7	7	644	0.0109
		447	中瀬川林道	平成23年8月～10月	7	5	644	0.0078
	中央部・遺産地域	442	安房林道63支線	平成23年7月	4	1	124	0.0081
		439	大川林道	平成23年7月～10月	19	48	2,337	0.0205
合 計					85	174	8,041	0.0216

(注1) 国有林内では、畧猟しか実施されていない。なお、のべ畧数は捕獲日数に畧数を掛けた値。捕獲効率は、捕獲頭数をのべ畧数で割った値である。

(注2) 国有林内では、平成22年度に計501頭のヤクシカを捕獲しているが、205林班の捕獲柵による捕獲頭数を差し引いた493頭を用い捕獲効率を計算した。

(注3) 参考までに平成22年度の大川林道における事例では、のべ畧数5,733個に対し掛かった人工数は43人日であり、のべ畧数1個につき0.0075人日の人工が必要とされた。

表-4 -2 平成22年度の屋久島森林管理署・森林環境保全センターにおける罾猟の捕獲実績等

地域区分	設 置 場 所	雄 雌 別	親 子 別 (妊 娠)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	雄・雌別 親・子別 小計	捕獲頭数 3月末日現在	捕獲方法				
				6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
北部	宮之浦林道	雄	親	0	0	0	4	5	31	18	11	18	3	雄・親	90	185	①罾掛け呼び込み方式			
			子	0	0	0	0	1	8	2	3	1	1	雄・子	16					
		雌	親	0	0	0	3	4	18	13	7	10	4	雌・親	59					
			子	0	0	0	3	3	5	4	1	3	1	雌・子	20					
	うち妊娠		0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	2	妊娠	9					
	計		0	0	0	10	13	62	37	22	32	9	計	185						
	神之川林道	雄	親	7	14	8	12	12	4	0	0	0	0	0	雄・親			57	123	
			子	2	3	2	1	1	2	0	0	0	0	0	雄・子			11		
		雌	親	6	14	7	5	6	3	0	0	0	0	0	雌・親			41		
			子	2	5	5	0	1	1	0	0	0	0	0	雌・子			14		
	うち妊娠		1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	妊娠	3					
	計		17	36	22	18	20	10	0	0	0	0	0	計	123					
白谷林道 217	雄	親	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	2	26	①罾ばらまき獣道方式 ②罾掛け呼び込み方式			
		子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子	0					
	雌	親	6	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・親	18					
		子	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・子	6					
うち妊娠		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0						
計		8	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	計	26						
北東部	小瀬田林道	雄	親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	0	8	①罾掛け呼び込み方式		
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	雄・子	2					
		雌	親	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	雌・親	4				
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	雌・子	2					
	うち妊娠		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	妊娠	2					
	計		0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	計	8					
	船行林道	雄	親	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	雄・親	5	6	①罾ばらまき獣道方式 ②罾掛け呼び込み方式		
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子	0				
		雌	親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・親	0				
			子	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	雌・子	1				
	うち妊娠		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0					
	計		0	0	0	4	0	0	1	1	0	0	0	計	6					
205シカ対策プロジェクト	雄	親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	0	8	①囲い柵追い込み方式 ②周辺罾掛け呼び込み方式			
		子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子	0					
	雌	親	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3	雌・親	5						
		子	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	雌・子	3						
うち妊娠		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	妊娠	2						
計		0	0	0	0	0	0	3	0	0	5	計	8							
南東部	中瀬川林道	雄	親	0	0	0	1	2	4	3	0	0	0	雄・親	10	26	①罾掛け呼び込み方式 ②罾ばらまき獣道方式			
			子	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	雄・子	3					
		雌	親	0	0	0	3	3	1	0	0	0	0	雌・親	7					
			子	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0	雌・子	6					
うち妊娠		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0						
計		0	0	0	5	10	8	3	0	0	0	計	26							
南・南西部	湯泊林道	雄	親	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	5	10	①罾ばらまき獣道方式 ②罾掛け呼び込み方式			
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子	0					
		雌	親	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・親	5					
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・子	0					
	うち妊娠		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0						
	計		10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計	10						
	小瀬子林道	雄	親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	雄・親	1	3				
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子			0		
		雌	親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	雌・親			2		
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・子			0		
	うち妊娠		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	妊娠	1					
	計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	計	3					
中央部・遺産地域	大川林道	雄	親	5	3	0	13	0	5	0	0	2	0	雄・親	28	106	①罾ばらまき獣道方式 ②罾掛け呼び込み方式			
			子	0	2	0	0	5	0	0	0	0	0	0	雄・子			7		
		雌	親	5	1	0	6	12	20	5	1	4	0	雌・親	54					
			子	0	0	2	0	0	2	13	0	0	0	雌・子	17					
うち妊娠		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0						
計		10	6	2	19	17	27	18	1	6	0	計	106							
合計	雄	親	17	18	9	34	19	44	21	12	20	4	雄・親	198	501	※①, ②別は捕獲方法の優先順				
		子	2	5	2	1	9	11	2	3	2	2	雄・子	39						
	雌	親	22	21	13	17	25	42	20	10	14	11	雌・親	195						
		子	4	7	9	4	7	10	19	1	4	4	雌・子	69						
うち妊娠		1	0	0	0	2	0	0	0	3	5	妊娠	17							
計		45	51	33	56	60	107	62	26	40	21	計	501							

表-4 -3 平成22年度の屋久島森林管理署・森林環境保全センターにおける罾猟の月毎の捕獲効率

地域区分	設 置 場 所	罾数	項目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
北部	宮之浦林道	23	捕獲頭数				10	13	62	37	22	32	9	185		
			のべ罾数				690	713	690	713	713	644	713	4,876		
			捕獲効率				0.014	0.018	0.090	0.052	0.031	0.050	0.013	0.038		
	神之川林道	15	捕獲頭数	17	36	22	18	20	10						123	
			のべ罾数	450	465	465	450	465	450							2,745
			捕獲効率	0.038	0.077	0.047	0.040	0.043	0.022							0.045
	白谷林道 217	12	捕獲頭数	8	9	9									26	
			のべ罾数	360	372	372										1,104
			捕獲効率	0.022	0.024	0.024										0.024
北東部	小瀬田林道	13	捕獲頭数								2	2	4	8		
			のべ罾数								403	364	403	1,170		
			捕獲効率								0.005	0.005	0.010	0.007		
	船行林道	12	捕獲頭数				4				1	1	0	0	6	
			のべ罾数				360				372	372	336	372	1,812	
			捕獲効率				0.011				0.003	0.003	0.000	0.000	0.003	
	205シ カ対策プ ロジェク ト	捕獲 柵	捕獲頭数								3			5	8	
			のべ罾数									-		-	-	
			捕獲効率									-		-	-	
南東部	中瀬川林道	13	捕獲頭数				5	10	8	3				26		
			のべ罾数				390	403	390	403					1,586	
			捕獲効率				0.013	0.025	0.021	0.007					0.016	
南・南西 部	湯泊林道	21	捕獲頭数	10										10		
			のべ罾数	630											630	
			捕獲効率	0.016											0.016	
	小揚子林道	21	捕獲頭数											3	3	
			のべ罾数											651	651	
			捕獲効率											0.005	0.005	
中央部・ 遺産地域	大川林道	21	捕獲頭数	10	6	2	19	17	27	18	1	6		106		
			のべ罾数	630	651	651	630	651	630	651	651	588			5,733	
			捕獲効率	0.016	0.009	0.003	0.030	0.026	0.043	0.028	0.002	0.010			0.018	
合計	151	捕獲頭数	45	51	33	56	60	107	62	26	40	21		501		
		のべ罾数	2,070	1,488	1,488	2,520	2,232	2,160	2,139	2,139	1,932	2,139		20,307		
		捕獲効率	0.022	0.034	0.022	0.022	0.027	0.050	0.029	0.012	0.021	0.010		0.025		

(注1) 罾数は、該当林道にて使用した罾数である。また、捕獲期間を灰色で示した。

(注2) 月毎の捕獲日数は、前提的に月初めから月終わりまでとした。

(注3) のべ罾数は、罾数に捕獲日数を掛け、捕獲効率は捕獲頭数をのべ罾数で割った値である。

表-4 -4 平成23年度の屋久島森林管理署・森林環境保全センターにおける畠猟の捕獲実績等

地域区分	設 置 場 所	雄雌別	親子別 (妊 娠)	月												雄・雌別 親・子別 小計	捕獲頭数 10月末日現 在	捕獲方法		
				5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月							
北部	宮之清林道	雄	親	0	2	0	7	5	2	0	0	0	0	0	雄・親	16	58	①罾掛け呼 込み方式		
			子	2	1	0	5	4	4	0	0	0	0	0	雄・子	16				
		雌	親	0	2	0	4	6	2	0	0	0	0	0	雌・親	14				
			子	0	1	0	1	4	6	0	0	0	0	0	雌・子	12				
	うち妊娠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0					
	計	2	6	0	17	19	14	0	0	0	0	0	0	計	58					
	神之川林道	雄	親	2	14	5	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	21			43	①罾ばらま き罾道方式 ②罾掛け呼 込み方式
			子	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子	2				
		雌	親	0	16	2	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・親	18				
			子	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・子	2				
	うち妊娠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0					
	計	2	31	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計	43					
白谷林道 217	雄	親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	0	4	①罾ばらま き罾道方式 ②罾掛け呼 込み方式			
		子	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子	2					
	雌	親	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・親	2					
		子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・子	0					
うち妊娠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0						
計	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計	4						
北東部	船行林道	雄	親	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	1	8		①罾ばらま き罾道方式 ②罾掛け呼 込み方式		
			子	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	雄・子				2	
		雌	親	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・親				2	
			子	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	雌・子				3	
うち妊娠	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	1						
計	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	計	8						
南東部	鍋山林道	雄	親	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	2	7	①罾ばらま き罾道方式 ②罾掛け呼 込み方式			
			子	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子				2	
		雌	親	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・親				2	
			子	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	雌・子				1	
	うち妊娠	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	1					
	計	0	1	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	計	7					
	中瀬川林道	雄	親	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	2		5	①罾掛け呼 込み方式 ②罾ばらま き罾道方式	
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子	0				
雌		親	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	雌・親	1					
		子	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	雌・子	2					
うち妊娠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0						
計	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	計	5						
中央部・ 遺産地域	安房林道 63支線	雄	親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・親	0	1	①罾掛け呼 込み方式 ②罾ばらま き罾道方式			
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雄・子			0		
		雌	親	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・親			1		
			子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	雌・子			0		
	うち妊娠	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	1					
	計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計	1					
	大川林道	雄	親	0	0	3	4	1	2	0	0	0	0	0	雄・親	10		48	①罾ばらま き罾道方式 ②罾掛け呼 込み方式	
			子	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	雄・子	6				
雌		親	0	0	5	10	2	3	0	0	0	0	0	雌・親	20					
		子	0	0	3	4	2	3	0	0	0	0	0	雌・子	12					
うち妊娠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	0						
計	0	0	13	20	7	8	0	0	0	0	0	0	計	48						
合計	雄	親	2	17	10	13	6	4	0	0	0	0	0	雄・親	52	174	※①, ②別 は捕獲方法 の優先順			
		子	4	2	5	7	6	6	0	0	0	0	0	雄・子	30					
	雌	親	2	21	9	15	8	5	0	0	0	0	0	雌・親	60					
		子	0	2	5	6	6	13	0	0	0	0	0	雌・子	32					
	うち妊娠	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	妊娠	3					
	計	8	42	29	41	26	28	0	0	0	0	0	0	計	174					

(注) 平成23年10月末までのデータを基に集計。

表-4 -5 平成23年度の屋久島森林管理署・森林環境保全センターにおける罾猟の月毎の捕獲効率

地域区分	設 置 場 所	罾数	項目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計	
北部	宮之浦 林道	4(5~6 月)・ 20(8~ 10月)	捕獲頭数	2	6		17	19	14					58	
			のべ罾数	124	120		620	600	620						2,084
			捕獲効率	0.016	0.050		0.027	0.032	0.023						0.028
	神之川 林道	20	捕獲頭数	2	31	10									43
			のべ罾数	620	600	620									1,840
			捕獲効率	0.003	0.052	0.016									0.023
	白谷林 道21 7	4	捕獲頭数	4											4
			のべ罾数	124											124
			捕獲効率	0.032											0.032
北東部	船行林 道	4	捕獲頭数		4				4					8	
			のべ罾数		120				124						244
			捕獲効率		0.033				0.032						0.033
南東部	鍋山林 道	7	捕獲頭数		1	5			1					7	
			のべ罾数		210	217			217						644
			捕獲効率		0.005	0.023			0.005						0.011
	中瀬川 林道	7	捕獲頭数				4	0	1						5
			のべ罾数				217	210	217						644
			捕獲効率				0.018	0.000	0.005						0.008
中央部・ 遺産地域	安房林 道63 支線	4	捕獲頭数			1								1	
			のべ罾数			124									124
			捕獲効率			0.008									0.008
	大川林 道	19	捕獲頭数			13	20	7	8					48	
			のべ罾数			589	589	570	589						2,337
			捕獲効率			0.022	0.034	0.012	0.014						0.021
合計	85	捕獲頭数	8	42	29	41	26	28						174	
		のべ罾数	868	1,050	1,550	1,426	1,380	1,767						8,041	
		捕獲効率	0.009	0.040	0.019	0.029	0.019	0.016						0.022	

(注1) 平成23年10月末までのデータを基に集計。

(注2) 罾数は、該当林道にて使用した罾数である。また、捕獲期間を灰色で示した。

(注3) 月毎の捕獲日数は、前提的に月初めから月終わりまでとした。

(注4) のべ罾数は、罾数に捕獲日数を掛け、捕獲効率は捕獲頭数をのべ罾数で割った値である。

(注5) 作業が途中段階であり、今後修正が行なわれる可能性がある。

4. 屋久島における平成 22 年度の捕獲頭数図と捕獲効率図

屋久島における平成 22 年度の捕獲頭数を図-2 に、平成 23 年度の捕獲効率を図-3 に示す。

なお、図-2 に示した捕獲頭数は、捕獲効率の集計に用いなかったものも含めて示している。そのため、平成 22 年度の上屋久猟友会は計 778 頭（うち捕獲効率の集計に用いたものが 447 頭）、屋久猟友会は計 419 頭（うち捕獲効率の集計に用いたものが 408 頭）、国有林は計 501 頭（うち捕獲効率の集計に用いたものが 493 頭）、合わせて計 1,698 頭（うち捕獲効率の集計に用いたものが 1,348 頭）の捕獲が実施された。

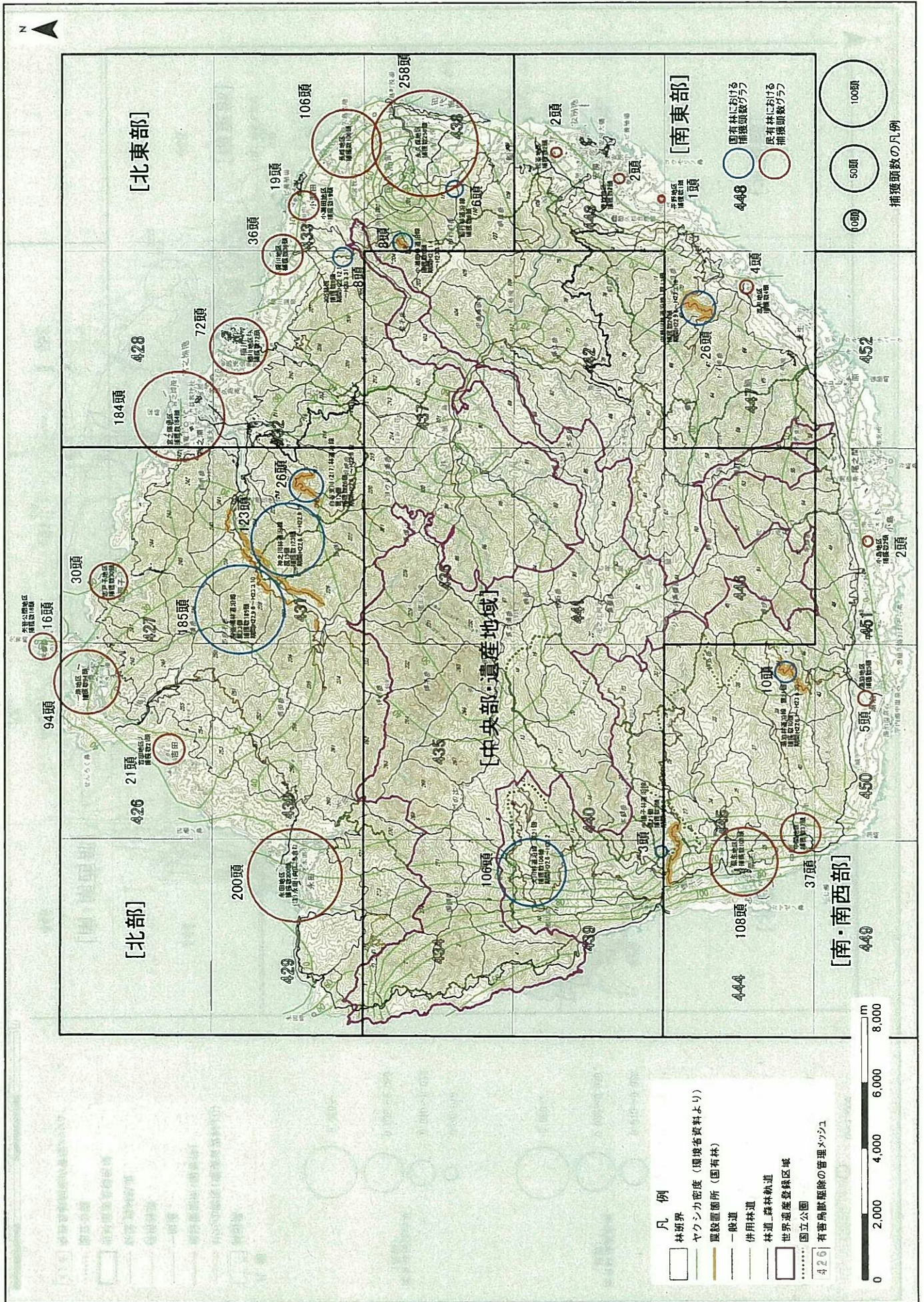


図-2 屋久島における平成 22 年度の捕獲頭数 18

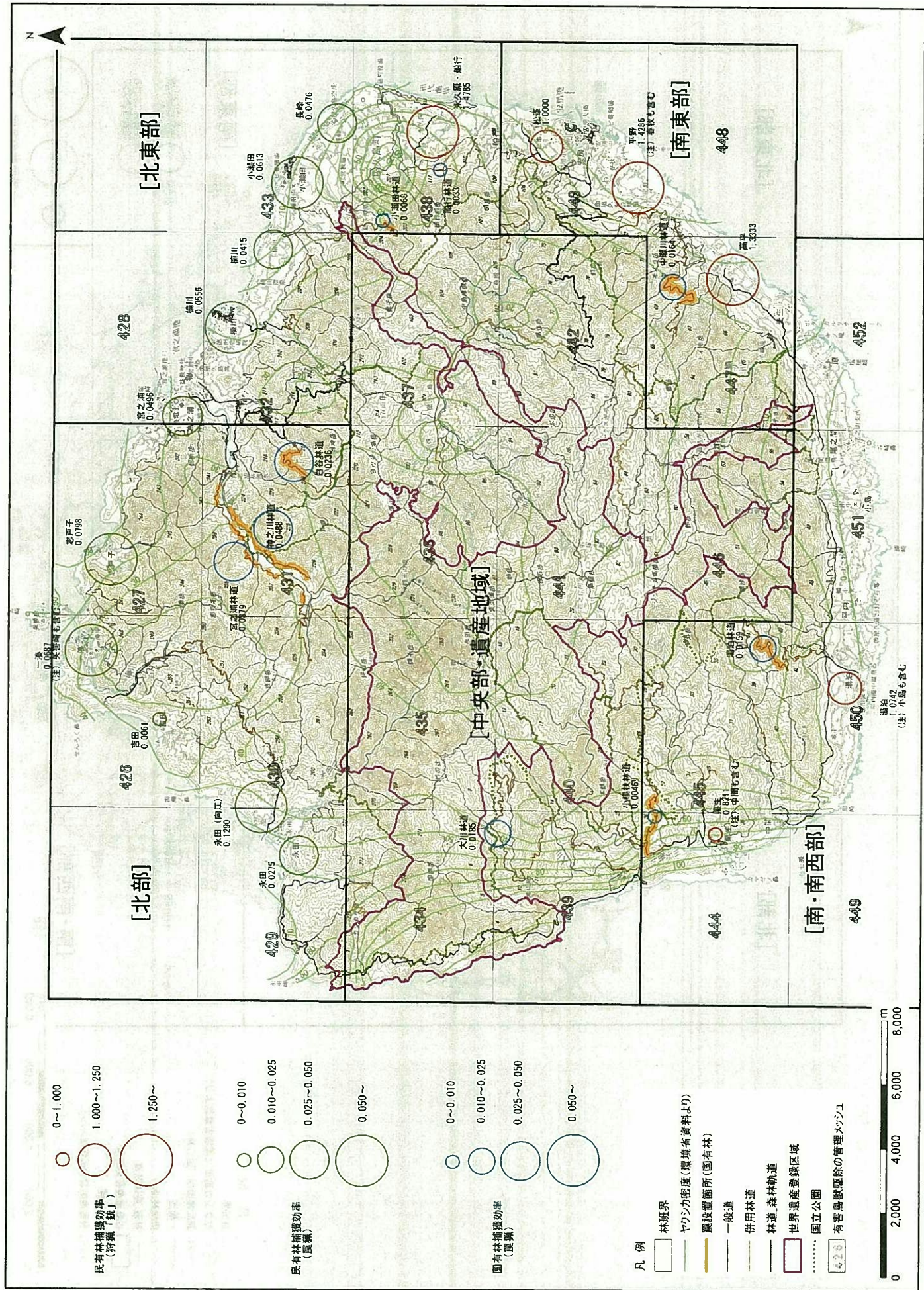


図-3 屋久島における平成22年度の捕獲効率 19

5. 他地域における捕獲及び捕獲効率の事例

次に、全国各地におけるシカ捕獲及び捕獲効率の事例を示す。

表-5-1に群馬県の罾猟における事例を示す。また、表-5-2に全国各地の銃猟や罾猟における事例を示す。

表-5-1 群馬県におけるシカ罾猟における捕獲効率の事例

群馬県の下仁田町における事例

下仁田町での捕獲事例によると、2009年8月～11月期間内ののべわな数は、3種×5基×102日=のべ1530基であり、1頭のニホンジカを捕獲したことより、その捕獲効率は、1頭/1530TN=0.0007であった。

群馬県神津牧場における事例

神津牧場における時系列的な事例（2009年10月～11月：第1～3期に分割して集計）を以下の表に示す。

期間	設置日数	わな数	のべ数	捕獲数	捕獲効率
第1期	11	20	220	8	0.0364
第2期	10	30	300	9	0.03
第3期	2	19	38	1	0.0263
合計	—	23	558	18	0.0323

調査の結果、第1期の捕獲効率が0.0364と最も高く、第2期が0.0300、第3期が0.0263と次第に下がる傾向が見られた。このことから、シカの罾に対する警戒心が高まっていることが予想された。しかしながら、神津牧場周辺でのシカの分布状況を考えると、10月後半からは山頂付近にある牧場から、低標高域に移動していることも予想されること、期ごとにわなの設置場所を大きく変更したことなどを考慮すると、わなに対する警戒心が高まったとは一概に断定することはできない。

(出典) - 群馬県野生動物調査・対策報告会 (2009年度) -

表-5-2 全国各地捕獲効率の事例

地 区	銃猟での捕獲効 率	罾での捕獲効率	出典
宮城県	0.08~0.31		宮城県特定鳥獣保護管理計画
群馬県	0.007	下仁田 0.0007 神津牧場 0.0263~0.0364	群馬県野生動物調査・対策報告会 (2009年度)
埼玉県	0.23~0.80		埼玉県特定鳥獣保護管理計画
東京都	0.10~0.30		東京都特定鳥獣保護管理計画
丹沢地区	0.03~0.49		2006年度神奈川県ニホンジカ保 護管理事業におけるニホンジカ 個体群調査報告
大台ヶ原	0.46~1.25	アルパインキャプチャー 0.17 簡易捕獲ワナ 0.01	大台ヶ原特定鳥獣保護管理計画
京都府	0.12~0.22		京都府特定鳥獣保護管理計画:中 部個体群
屋久島	H22屋久猟友会 1.0742 ⁽¹⁾	環境省東部地域 0.015 ⁽²⁾ H22上屋久猟友会 0.0415 ⁽³⁾ H22森林管理署 0.025 ⁽⁴⁾	(1): 前述表-2-3 (2): 有害鳥獣捕獲実績報告書 (3): 前述表-1-3 (4): 前述表-3-3

(注) 捕獲効率は、狩猟の場合は捕獲頭数/のべ人工数、罾の場合は捕獲頭数/のべ罾数、
である。

ヤクシカは、その大きさがニホンジカの半分程度であり単純な捕獲効率の比較は難しい
ものの、屋久島での捕獲効率は、銃猟の場合も、罾猟の場合でも全国各地の数値に比較す
ると高い傾向にあり、特に銃猟の数値の高さが目立つ。

今後は、より緻密な個体密度の調査を行うと共に、地域ごとの個体密度と捕獲効率との
関係を検討し、同様な捕獲圧を継続的に掛けていった場合の密度への影響と植物に対する
影響について継続的なモニタリングしていく必要がある。